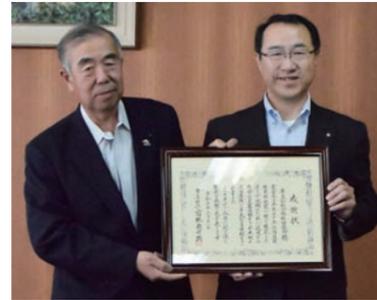


## 11日 町社会福祉協議会に感謝状を贈呈

胆振東部地震に際して災害ボランティアセンターの開設など、被災した方々や地域のために懸命な支援活動をされたことから、町から町社会福祉協議会(種部健一会長)に感謝状を贈呈しました。

贈呈は総合福祉センターで開催された町社会福祉協議会理事会の場で行われ、宮坂町長は「災害ボランティアセンターがあって始めて、多くのボランティアの方々の協力が得られたと思っています。今後も一人ひとりの心の復旧のために尽力いただきたいと思います」とあいさつ。

種部会長は「被災した町民を支援しようと道内外からこれまでに延べ4,900人のボランティアが訪れ、活動していただいています。今後も町と連携し、被災者支援活動を展開します」と話していました。



感謝状を受け取った種部会長(左)

## 18日 20日 上厚真小学校で防災・木育教室

6月18日と20日の2日間、北星学園大学准教授で町スクールカウンセラーの柿原久仁佳さんと北海道胆振総合振興局森林室主催の防災・木育教室が、上厚真小学校(井内宏磨校長)の6年生を対象に行われました。

この教室は、地震を経験した子どもたちが、木に触れ、リラックスしながら災害に対する適切な知識を持てるようにと実施されました。

柿原准教授は木製トレー作りを教えながら、「日頃から整理整頓することで、災害時にスムーズに避難できる環境を整えておくことが大切です」と子どもたちに防災の心得を伝えました。

作品を仕上げた真野薫君は「ためになったし、楽しかった。時計や小さいバッグなど毎日使うものを入れたい」と話していました。



## 19日 ふるさと厚真へ 木原直彦さんから著書の寄贈

上厚真出身で元北海道文学館長の木原直彦さん(現在は札幌市在住)から、ふるさとである町に対し「北海道文学史(全3巻)」ほか27作品計55冊の著書が寄贈されました。

木原さんは、北海道文学館の初代館長などを歴任し、長年にわたり北海道と文学との関わりについて発表されてきました。その功績から、平成18年に地域文化功労章(文部科学大臣)、平成24年には北海道功労賞(北海道文学の振興)などを授与されています。

頂いた著作は、青少年センター図書室と厚南会館図書室で、「木原直彦文庫」として所蔵しています。



## 6日 厚真建設協会が花壇整備を実施

厚真建設協会(鈴木英毅会長)が、厚真大橋たもと付近の花壇整備を行い、会員16社約20人が参加しました。

これは、厚真市街地の入口である交差点をきれいにし出迎えようと毎年実施されているものです。

建設業ならではの連携で手際よく枠付や土おこしを行い、ベゴニアやマリーゴールドなど8種類の花、約880株を植えていました。

鈴木会長は「ここは厚真の入口にもなっている場所。町内外の方にきれいな花を見て楽しんでもらいたい」と話していました。



## 6日 街を花でいっぱいにして 市街地環境整備を実施

市街地を花いっぱいにする事でイメージアップを図る「厚真市街地環境整備事業」が行われ、花フレンズ、商工会女性部、南町自治会、西町自治会、表町公園仮設団地などから約30人が参加しました。

参加者は市街地沿道の街路樹の下100カ所にサルビア、マリーゴールドを約1,000株を植栽。道行く車や人の目を楽しませています。



## 10日 YOSAKOIソーラン「ロシア・サハリンチーム」が 踊りで地域の若者たちと交流

YOSAKOIソーラン祭り(6月5~9日、札幌市)に出場したロシア・サハリンチームと町商工会青年部や役場若手職員などの昼食交流会が総合福祉センターで行われました。

同チームは鮮やかな伝統衣装を身にまといロシアの民族舞踊と現代風ダンスを融合させた演舞を披露し、会場に手拍子が響きました。

ガラニン・アレクサンドル団長は「サハリンでも深刻な地震災害があり、その大変さを知っています。厚真の復興を心から願います。互いの文化を知り、若い世代の交流を深めていきたいです」と話しました。

その後、チームは町内を視察。翌日には厚真高校で生徒たちと踊りを披露し合うなどの交流が行われました。



## ルール違反のごみ… 改善してから出しましょう

分別されていないごみや有料指定袋以外での排出など、間違った出し方をしている方に正しく出し直すよう注意するため、警告ラベル(左図)を貼っています。

ラベルが貼られた場合は、理由を確認し、ルールを守ってごみを出し直してください。



### ラベルを貼る事例

- きちんと分別してください → 正しく分別して、出してください (ラベルの余白部分に理由を記載しています)
- 収集日が違います → 収集日を確認し、正しい収集日に出してください

警告ラベルを貼られるごみ袋は周囲の方々に迷惑がかかります

## 財政状況

地方自治法の規定に基づいて、平成31年3月31日現在の安平・厚真行政事務組合会計の歳入歳出、財産、地方債の状況についてお知らせします。

※各項目の合計と総額の相違に関しては、1万円未満の端数処理によるものです

### 予算の執行状況 (平成31年3月31日現在)

歳入	予算現額	収入済額	収入率	備考
分担金及び負担金	1億9,728万円	1億9,728万円	100.0%	(内訳) 安平町：125,796千円 厚真町：71,493千円
使用料及び手数料	3,132万円	3,322万円	106.1%	ごみ処理手数料、大型ごみ処理券、ごみ袋売払手数料など
財産収入	246万円	246万円	100.2%	アルミ・スチール缶、鉄くず等売払いなど
繰入金	313万円	313万円	100.0%	基金の取崩し
繰越金	81万円	81万円	100.0%	平成29年度繰越金
諸収入	0円	83万円	16781.7%	再商品合理化化拠出金配当、PETボトル有償入札拠出金配当など
国庫支出金	204万円	0円	0.0%	災害廃棄物処理施設災害復旧事業補助金
歳入合計	2億3,707万円	2億3,776万円	100.3%	

歳出	予算現額	支出済額	執行率	備考
議会費	16万円	14万円	87.0%	組合議会経費
総務費	2,086万円	1,999万円	95.8%	事務局職員人件費、事務費等、組合監査委員経費
衛生費	2億777万円	2億152万円	97.0%	ごみ処理委託 塵芥処理場内路盤等補修工事 (572万円繰越明許)
公債費	726万円	726万円	99.9%	施設整備のため国などからの借入金の償還
予備費	100万円	0円	0.0%	
歳出合計	2億3,707万円	2億2,893万円	96.6%	

## 地方債の状況

地方債とは、一定の基準を満たす事業の財源として、組合が国などから借り入れた長期的な借入金です。

区分	平成31年3月31日現在 残高
一般廃棄物処理事業債	
最終処分場適正閉鎖事業(H15~16) およびストックヤード施設整備事業(H21~22)の償還	1,700万円

## 組合財産状況

建物	2,264.12 m <sup>2</sup>	塵芥(じんかい)処理場 洗車場汚水処理設備 ストックヤード(キャノピー) 有機物供給センター 保管庫
物品	車両 4台	公用車 ホイールローダー 油圧ショベル フォークリフト
基金	3,197万円	廃棄物処理施設整備基金

※物品は、購入金額100万円以上を記載しています

## 20日 地域おこし企業人 石田小織さんに辞令交付

大阪市の日用品配送業「クーバル株式会社」から、地域おこし企業人として神戸市出身の石田小織さん(51歳)が派遣され、役場町長室で辞令交付式が行われました。

石田さんは「これまで培ってきた情報系の技術などを生かして力とになれるよう頑張ります」と抱負を語りました。

式には同社の井上善博代表取締役会長も同席し「会社として地域の課題に対して、事業を通じて解決したいとの思いがあります。実務能力の高い社員なので、期待しています」と石田さんを激励。宮坂町長は「事業展開を想像しながら、自由な発想で取り組んでいただきたいです」と期待を寄せました。



左から井上代表取締役会長、石田さん、宮坂町長

## 24日 苫小牧市公設卸売市場で厚真産ハスカップの初競り

苫小牧市公設卸売市場で厚真産ハスカップの初競りが行われました。最高級の「特A大サイズ」の初値が300g 1パックで昨年の1,000円を大きく上回る過去最高値の1,600円で取引されました。この日は、とまこまい広域農協厚真町ハスカップ部会(長谷誠良会長)が計385kgを出荷。

市場関係者は、「今年は胆振東部地震で作付面積が減少したため、例年に比べ生産量が大きく落ち込むことが予想されています。復興支援の意味合いを込めて高値がついたのでは」と話していました。

参加した生産農家は、産地再生への気持ちを新たにしていました。



あいさつする長谷誠良ハスカップ部会長

## 25日 厚真町民生委員協議会へ感謝状贈呈

厚真町民生委員協議会(大橋正治会長)に宮坂町長から感謝状が手渡されました。

この感謝状は、胆振東部地震発災時の安否確認や見守り活動に尽力いただいたことによるもので、宮坂町長は「皆さまには、町の復旧・復興において多大な貢献をされたことにあらためて感謝いたします」とあいさつしていました。



大橋会長(右)に感謝状が手渡されました

## 27日 厚真産ハスカップのブランド化で日新製薬株式会社と連携協定を締結

滋賀県甲賀市に本社を置き、医薬品の製造・販売を手掛ける日新製薬株式会社と厚真産ハスカップのブランド化に関する協定を交わしました。調印式は総合福祉センターで行われ、大橋淳一代表取締役社長と宮坂町長が協定書に署名し、握手しました。

この協定は、産官の相互連携により厚真産ハスカップを利用した商品の開発や全国的なPRを図るもの。今後は来春を目標に、新製品の商品化を目指します。



握手を交わす大橋社長(右)と宮坂町長

<問い合わせ> 安平・厚真行政事務組合 ☎22-3151  
町民福祉課 町民生活グループ(総合ケアセンターゆくり内) ☎26-7871